



# 戦後70年の神学と教会

〔新教コイノニア35〕

## 新教出版社編集部編

戦後70年となる2015年、月刊誌『福音と世界』はキリスト教界の歩みを神学と教会の観点から振り返り、また今後の課題を展望する5回の連続特集を企画し、大きな反響を呼んだ。多くの読者の要望に応え、ここに一書にまとめる。

70年の間に日本の神学と教会が取り組んだ問題とその軌跡を真摯に受けとめることは、21世紀の歩みにとって不可欠である。

◆A5判・160頁・本体1500円

好評の関連書

## 宗教改革と現代

〔新教コイノニア34〕

改革者たちの500年とこれから

6つのテーマをめぐって総勢40名の論者たちが  
寄稿した総力特集。

本体2200円

### 〔目次より〕

#### 1 神学

八木誠一……戦後の新約聖書学がやり残したこと

山我哲雄……戦後日本の旧約聖書学の歩み

出村 彰……キリスト教史学の展開と課題

芦名定道……戦後・組織神学の歩みと課題

中道基夫……戦後日本の実践神学の展開

深田未来生……戦後日本の神学教育

吉谷かおる……権利と権威を求めて

宮城幹夫……米国統治下における沖繩の社会正義神学

関田寛雄……寄留の牧者・神学者 李仁夏牧師

#### 2 教会

佐藤司郎……「戦後七十年」と教会

山口陽一……戦後70年と福音派諸教会の戦責告白

秋山 徹……罪責を告白する教会となるために

村椿嘉信……「沖繩戦」後七〇年と沖繩の教会

大久保正禎……戦後・日本基督教団と沖繩の関係

大下幸恵……戦後70年の歴史に学ぶ

荒井眞理……キリスト者として社会問題に発言する

古谷正仁……“Being Church”への視点から見た「生き生きとした」教会

「2005年ピューリッツァー賞・全米批評家賞受賞」

## ギレアド

マリリン・ロビンソン著／宇野元訳

アイオワ州のギレアドという片田舎の町。カルヴァンとバルトを愛読する老牧師が自らの死期を意識し、若い妻との間にもうけた幼い息子に手紙を綴る。南北戦争から冷戦期にいたる三代にわたる牧師一家の信仰の継承と屈折。帰郷した知己の青年と妻との関係。自らの揺れる心。隣人たちの人生――。

「私はこの本の虜になった」バラク・オバマ

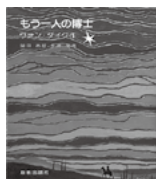
◆四六判・350頁・本体3000円

10月25日発売



マリリン・ロビンソンは1943年アイダホ州生まれ。ブラウン大学で学んだ後ワシントン大学で博士号取得(英文学)。これまで4冊の長編を発表、いずれも高い評価を受けた。うち3冊は「ギレアド三部作」と呼ばれる。またイギリスの原発問題を扱ったルポ、また近代思想に関するエッセイ集などがある。長老派の教会で育ったが、のち会衆派に転じ、信徒として説教もする。

## ●待望のクリスマス向け復刊

ヴァン・ダイク作／岡田尚訳／佐藤努画  
もう一人の博士

「アルタバン物語」としても知られる名作。 ◆B5変型判・本体1500円

マルティン・ルター著／R・バイントン編／中村妙子訳  
クリスマス・ブック

ルターのクリスマス説教7編を収録。

◆B5変型判・本体1700円

トム・ハーバー原作／中村吉基訳／望月麻生絵  
**いのちの水**

昔々、誰もが飲める、「いのちの水」が湧き出る泉があった。しかし、その泉に感謝するために建てたはずの記念碑や礼拝堂は、どんどん大きくなり、やがて泉がどこにあるのかすら分からなくなりました……。痛烈な寓話を幻想的な美しい消しゴム版画で贈る。

◆B6判・予価1200円

一色哲著

**南島キリスト教史入門** (仮題)

琉球王国の最大版図とほぼ重なる「南島」のキリスト教は、日本のキリスト教に従属しない独自の深さと広がりを持つ。なぜ南島には多くの教会が建てられ、現在でも多くの人の信仰を集めているのか。その歴史を丹念な調査と重層的な視点から追究した力作。

◆四六変判・予価2300円

ヨアヒム・エレミアス著／南條俊一訳

**イエスの譬え話の再発見** (仮題)

譬え話をイエスが語った一番元の形に立ち返らせ、イエス自身が譬え話で何を伝えたかったのかを明らかにすべくパレスチナの環境の中で解釈しようとする。金字塔の名著『イエスの譬え話』。同書をより分かりやすく英語圏で紹介したいとの著者の願いから生まれた英語版を底本とする。

◆四六判・予価3500円

佐竹明著

**第二コリント書 8―9章**

現代新約注解全書

10―13章は来年予定。

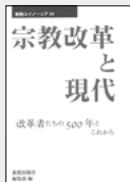
◆A5判・予価8000円

●9月に出た本と雑誌

**宗教改革と現代**

改革者たちの500年とこれから

新教出版社編集部編



『福音と世界』の6回の連続特集を一冊にまとめた。40名の論者が神学から歴史にいたる多様な視点から宗教改革を論じた総特集。

◆A5判・本体2200円

**新約聖書解題**

山谷省吾著／中野実解説



「本書を凌駕する書物は本邦においては、未だ出ていないと言わざるを得ない」(松永希久夫氏)。新約緒論の名著がこのほど中野実氏による新たな解説を付して待望のオンデマンド復刊。

◆A5判・本体5500円

**福音と世界**

10月号 特集 かざることの神学

◆税込635円

寄稿者・池田裕、三橋順子、八木谷涼子、編集部／長尾優、福嶋揚、有住航／高井ヘラー由紀、板垣雄三、芦名定道、吉松純、内田樹、辻学、佐藤優、望月麻生



●残すところわずかとなった2017年は、戦後72年にあたる年でした。では、戦後の日本社会の歩みは、成功だったといえるでしょうか。それを考えるうえで興味深い、こんな曲があります。「皆よりも俺の家は汚くて狭い、テレビとかで皆言ってる『お金よりも愛』お金持ちにカップラーメンのうまさわからない白いご飯に醤油かけて食べるのもうまい」(MOON CHILD)。注目すべきは、2014年にこれを歌ったのは、戦後・団塊世代などではなくまだ20代の若きアーティストKOHJIだったということ。自らのリアルな体験をつづるこのことは、豊かで満ち足りた社会をめざしてきた戦後の発展が、いまやご破算となつていふことを告発しています。

●では、これを受けてわたしたちは、戦後という時代をあらためてどのように捉えなおせばよいのでしょうか。今月刊行の「戦後70年の神学と教会」は、この課題にキリスト教的視点からアプローチする重要な論文集です。第1章「神学」では、戦後70年間の神学の各分野の成果と課題を、フェミニスト神学や沖縄の神学、移住民の神学なども交えて振り返ります。第2章「教会」では、諸教派の戦責告白を念頭に、戦後社会のなかで教会が具体的にどんな働きを担ってきたのかを確かめます。丹念な検証をつうじて、戦後の歩みの至らない点を率直に認めるとともに、継承すべきものはなんとしても継承することが必要です。そう、「戦後」が終わるまえに。新たな戦時体制が、すでに作られつつあるのですから。(堀)

●毎年好評の渡辺禎雄版画カレンダー2018年版が出来上がりました。作品は1987年の「トマス」です。主イエスをこの目で見、その傷に触れないことには復活を信じないと言い張るトマスに、主は「信じる者になれ」と言つて自らの傷を差し出します。信じたくとも信じられない私たち人間の限界に注がれた、主イエスの何とも言えぬ愛とユーモアをみごとに活写した傑作。クリスマスプレゼントにも喜ばれる1枚です。税込540円。(小林)

# 福音と世界

2017年  
11

A5判・80頁・定価635円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8460円

特集・ユダヤ教のいま

人種差別としての反ユダヤ主義とイスラエル国家

イスラエル国家

早尾貴紀

ユダヤ教とシオニズムのもつれた関係

ユダヤ教とシオニズム

赤尾光春

「ユダヤ人」をめぐる議論と相対化の試み

「ユダヤ人」

山森みか

トランプ時代のアメリカ・ユダヤ人の分断・苦悩

トランプ時代

手島勲矢

日本のシナゴークを訪ねて

日本のシナゴーク

編集部

■インタビュー マルゴット・ケースマンに聞く

■《書評》正田倫顕著『ゴッホと《聖なるもの》』

【新連載】福音の地下水脈 1 中村うさぎ

【連載より】

◆はじめての台湾キリスト教史 8 高井ヘラー由紀

◆みことば散歩 11 望月麻生

◆聖書とわたし 21 森達也

◆現代神学の冒険 14 芦名定道

◆新約釈義 第一テモテ書 21 辻学

◆レヴィナスの時論 32 内田樹

◆ことばの履歴書 44 佐藤優

◆詩篇の思想と信仰 149 月本昭男